



緑っ子だより

校訓／教育目標
かしこく やさしく たくましく

豊かな心とたくましさを持ち
夢に向かって伸びる緑っ子の育成

宇土市立緑川小学校
N010 令和元年10月7日
文責 田原 里恵

6年生は長崎に修学旅行に、

5年生は水俣に環境学習（水俣に学ぶ肥後っ子教室）に行きました。



5年生は、9月20日（金）に、水俣に学ぶ肥後っ子教室に行きました。水俣病情報センターや水俣病資料館に展示してある資料で学び、語り部の滝下昌文さんのお話を聞きました。胎児性水俣病の患者として生まれ、2歳の頃からの入院生活のお話や、謂れのない差別を受けてきたこと、そして、年々、体が思うように動かなくなっており、体調も悪くなっているが、自分が語り部になった思い（胎児性患者の思いを代表して表現したい）等をお聴きすることができました。水俣病公式確認から63年経った今でも、水俣病患者の方々への差別、偏見は残っています。子どもたちは真剣に話を聴き、感じ、自分にできることを考えていました。午後からは、県環境センターでの学習を行いました。当たり前のように水道から出る水は、永遠ではないこと、皆が環境問題に関心を持ち、取り組んでいくことが大事だということ学びました。



6年生は、9月29日（土）、30日（日）に、長崎に修学旅行に行きました。小雨が降ったり止んだりの天気でしたが、子どもたちは網津小学校の子どもたちと一緒に、楽しく学び、活動することができました。1日目は、平和学習を行いました。語り部の田中安次郎さんは、ご自身も被爆され、原爆手帳を見せてくださいました。現在、被爆者手帳を持たれている人が約14,000人、平均年齢が82.6歳だそうです。「年々、被爆した方々は亡くなられていっているのです、近い将来、被爆者はいなくなったときに語れるのは、今の君たちだ。」「ピース・メッセンジャーになってほしい。」と平和への願いを託されました。原爆落下当時のこと、被爆者ということでの差別等を語っていただき、子どもたちは真剣に話をお聴きしていました。「みんなができる平和への道として、『花』いっぱい、『笑顔』いっぱい、『歌』いっぱいに取り組んでほしい」と語られました。宿泊はホテル日航。夕食も朝食もバイキングで、子どもたちのにこやかな笑顔がいっぱいでした。2日目は、終日ハウステンボスでの班活動。網津小学校との合同班で、どの班も楽しんでいました。



5年生も6年生も、立派な態度で行動し、学びの多い時間を過ごすことができたようでした。

あいさつ上手な子どもたち。

毎朝、交通指導を兼ね、登校班を迎えるように学校から歩いています。子どもたちは、元気にあいさつをしてくれます。ちゃんと顔を見て。しかも、私だけでなく、地域の方々にも。とても素晴らしいことです。この姿をずっと続けていけるように、ご家庭と一緒に取り組んでいきたいと思ひます。

〔校長室から〕ありがとうございました。

お知らせが遅くなりましたが、夏休みに（株）キタグチの北口様から、図書費の寄付を頂きました。平成20年度から定期的に寄付をいただいております。本当にありがとうございます。本を購入させていただきます。